

世界水準の山岳高原観光地づくり構想について (概要)

山岳高原観光課

山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり

<長野県が目指す「世界水準の滞在型観光地」>

- 1 「地域の本質的なもの」がコンセプトとして確立している**
・「地域の本質的なもの」を見極め、それをコンセプトとして確立している。
・コンセプトを観光地づくりに落とし込み、洗練させていく取組を長期的に継続している
- 2 コンセプトに基づいた「独自の価値」が提供されている**
・コンセプトに基づき、「地域の本質的なもの」を、顧客が高い満足度を得られる商品として磨き上げる。そのことを通じて「独自の価値」を提供している。
・顧客がその価値を最大限に楽しみ、滞在しやすい受入環境が整っている。
・価値の提供が自然環境と調和する形で行われ、長期的に維持されている。
- 3 世界の観光市場の中で認知されている**
・世界の観光市場で「独自の価値」を持つ地域として広く認識されている。
- 4 マネジメント体制が整っている**
・世界水準を目指す具体的な戦略がある。
・観光事業者、行政、地域住民等と連携して観光地づくりをマネジメントする体制がある。
・マネジメント体制が、自立的・継続的に運営されている。

<基本的な県事業の構成>

- 1 目指す姿の実現に向けたビジョンづくり (H25~26年度)**
- 2 山岳高原観光地づくりを支える基盤整備 (H25年度~)**
・「NAGANOモビリティ」の推進
・おもてなしの推進
・中核人材の育成
・宿泊施設の機能表示
・登山道、トイレの整備 等
- 3 3つの重点支援地域への支援 (H26年度~)**
・受入環境整備への支援
・有識者の派遣による助言
・観光事業者の意識醸成 等
- 4 全国的な施策に係る国への提言**
・長期滞在を促す休暇制度の改革
・民間活動を活性化させるための規制改革

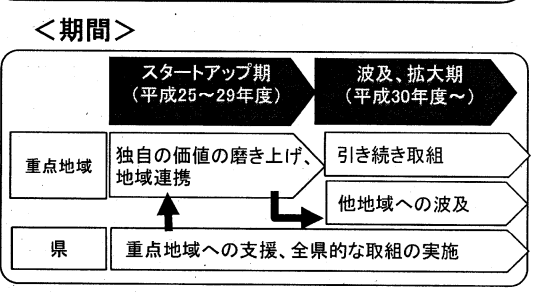
大町市、白馬村、小谷村
◆外国人旅行者でにぎわう白馬、立山黒部アルペンルート
【テーマ】
通過型から周遊滞在型へ

木曽町
◆御嶽山信仰に育まれた独自の歴史文化、中山道の宿場
【テーマ】
御嶽山と日本らしい文化の活用

<3つの重点支援地域>

飯山市を中心とする信越9市町村
◆新幹線新駅の開業、自然アクティビティの聖地としての可能性
【テーマ】
新幹線駅を核とした広域連携

※重点支援地域の取組を県内各地へ波及



世界水準の滞在型観光地の要件(目指す姿)	構想を実現させる		実施方針		具体的な取組	
	①コンセプトの確立	②コンセプトの具現化	③情報発信	④マネジメントと運営体制づくり	地域	県
1. 「地域の本質的なもの」がコンセプトとして確立している	①コンセプトの確立	・地域の価値に共感する顧客を見据える。 ・流行に追随した表面的な作り方はしない。 ・地域の一人ひとりが具現化できるものとする。	・地域の素材・特徴の洗い出し ・顧客の意識把握 ・コンセプトの検討		地域	
2. コンセプトに基づいた「独自の価値」が提供されている	②コンセプトの具現化	a) 商品の開発と販売 ・顧客に「独自の価値」を提供するという強い意識を持って、資源を磨き上げる。 ・高級でなくとも上質なものを提供する。 ・不断の努力によって商品の質を向上させる。 ・顧客に対して新しい観光スタイルを提案する。 b) 顧客の受入環境の整備 ・年齢、国籍、身体能力の差異等に関わらず、誰もが楽しめるユニバーサルな環境をつくる。 ・顧客一人ひとりがそのニーズに合わせて、様々な商品やサービスを選べる環境をつくる。 ・自然環境を保全する。 ・必要な安全性を担保する。 ・行政界を越えた広域連携によって整備を進める。	地域 ・プログラム開発の支援 山岳高原観光向けサービス開発の促進 象徴的な施設等とタイアップした商品開発 インタープリター機能の強化 県 ・広域移動につながる新たな観光スタイルの開発 地域への食の魅力を活かした商品開発の促進 広域の交通機関連携サービスの開発	地域・県 ・ホスピタリティの向上促進 山岳高原インフラの整備 観光情報の一元的な集約と提供 環境保全のための規制と情報提供 景観づくりガイドラインの策定 長期滞在者向けの環境整備 公衆無線LAN環境の整備 県 ・品質を保證する評価制度の導入 全県的な景観づくり 空港とのアクセス強化	地域	
3. 世界の観光市場の中で認知されている	③情報発信	・世界の観光市場へプロモーションをする。 ・県内外の幅広い場所から情報を発信する。	地域 ・プロモーションと情報発信 県 ・全県的なプロモーションと情報発信		地域	
4. マネジメント体制が整っている	④マネジメントと運営体制づくり	a) 戦略策定とマネジメント ・住民が誇り、愛着をもてる観光地を目指す。 ・現状を客観的なデータで把握する。 ・どのような規制を強化もしくは緩和すべきかを検討する。 b) 地域主体の運営体制づくり ・各主体が連携し、自立的、継続的に活動できる体制をつくる。 ・必要な人材と財源を確保する。	地域 ・戦略策定 広域マーケティング 観光地づくりのマネジメント 全県的なマネジメント 全県的なマーケティング 規制改革 長期休暇を促す休暇制度改革のための提言 重点支援地域への支援と成果の波及 県 ・マネジメント組織の構築 観光地づくり人材の育成 地域住民の理解と関与の促進 全県的な人材育成支援	地域		

それぞれが直近5年でモデルとしての成果を出し、他地域に波及させる

重点支援地域の施策

木曽町エリア
■テーマ「御嶽山と日本らしい文化の活用」
御嶽山の信仰、中山道の歴史などを活かし、こうした文化的資源を山岳高原観光に取り入れた観光地づくりのモデルを目指す。
■必要な施策
①観光客に対する「霊場」体験の提供
②心身の健康増進につながる観光の実現
③住民の誇りと愛着を示すおもてなしの実現

大町市・白馬村・小谷村エリア
■テーマ「通過型から周遊滞在型へ」
北アルプスを軸とした広域の観光地づくりを進め、白馬や立山黒部アルペンルートの観光客を呼び込むことを通じて、通過型の顧客をエリア内に広く周遊・滞在させる観光地としてのモデルを目指す。
■必要な施策
①広域エリアのコンセプトの明確化とブランディング
②エリア全体でのマーケティング
③通過する顧客の周遊・滞在化の促進

飯山市を中心とする信越9市町村エリア
■テーマ「新幹線駅を核とした広域連携」
日本の原風景ともいえる里山文化が残された広大な文化圏と、9市町村の連携体制を活かし、ワンストップサービスや独自の滞在型観光スタイルの実現によって、広域連携の先進モデルになることを目指す。
■必要な施策
①広域マネジメントセンターの構築
②9市町村連携によるワンストップサービスの実現
③広域の強みを活かした滞在型観光スタイルの構築